

第三十回はすまつり投句会 入選作品

はすまつり開催期間中、花はす公園内に投句箱を設け、花はす又は南越前町の史跡・名勝を題材とした俳句を募集しました。県内外から四百七句の投句があり、これらを小山柴門先生ら五人が選句した結果、入選句が決まりました。(敬称略)

花はす大賞

一人来て言うな地蔵の落し文

越前市

前田 絹代

南越前町長賞

レンガ積み手掘トンネル滴れり

越前市

加藤 蒼美

南越前町議会議長賞

被災宅の泥掻き終へて蓮湯かな

越前市

岡田 有峰

福井新聞社賞

絵馬の船すべて満帆葳涼し

福井市

杉原 静

FBC賞

今も残る建武の姓や蓮の里

南越前町

米野 道雄

福井テレビ賞

一仏の現はるるごと蓮開く

越前市

金森 信子

南越前町観光連盟賞

縄文の夜明けも斯くや蓮ひらく

越前市

上嶋 昭子

南越前町商工会長賞

段毎の蓮田に花の遅速あり

福井市

村田 浩

南越前町文化協議会長賞

大賀蓮古代のロマン秘めて咲く

福井市

杉原 静

選者入選句（順不同）

小山 柴門 選

特選

縄文の夜明けも斯くや蓮ひらく

越前市

上嶋 昭子

選評

蓮の開花は払暁であり剩え「ポン」と音を伴うとか。その故に開花の時をねらってその瞬間に耳を敲てる蓮見客も多いそうである。特選に頂戴した句は古代よりもハスの淵源を太古までスリップさせ、この句を得た。ヒトは日の出と共に活動を始め、日没には作務を終える。そういった有史以前の悠久の流れに身を置いて、縄文の黎明という雄渾な、そして、こころ豊かな景を一句にまとめられたのであると感服した。ハスは中国から渡来との説だが日本に太古より自生していたのではと考えれば縄文のハスも強ち無理筋とは言えまい。

秀作

往還の峠に番所鳥渡る

福井市

村田 浩

大花をくしゃくしゃにして蓮なげく

鯖江市

多田 晶子

花はすのポンと一声開店す

鯖江市

後藤 利喜夫

蓮の葉の揺れて濃くなる風の色

鯖江市

岡田 和子

今も残る建武の姓や蓮の里

南越前町

米野 道雄

佳作 小山 柴門 選

花蘇鉄本家分家の蔓寄る

福井市

西村 圭子

眠り姫のごとき花蓮箱中に

越前市

多田 みす枝

三度訪ふコロナ禍の中蓮の池

福井市

坪田 哲夫

会ふことの適はざる人花蓮

南越前町

中村 良子

蓮咲けり城山よりの朝風に

福井市

杉原 静

カメラマン必死蓮田の泥を啣む

福井市

加畑 朋子

一人来て言うな地蔵の落し文

越前市

前田 絹代

蓮の葉はパラボラアンテナ実は記憶

南越前町

近藤 小鼠

戦禍の報蓮散華してただ無言

南越前町

近藤 小鼠

豪雨あと蓮花しづもりまつり果つ

鯖江市

多田 晶子

被災宅の泥搔き終へて蓮湯かな

越前市

岡田 有峰

炎天も豪雨も許す蓮の花

越前市

山村 輝子

テラスまで右近の浜のあいの風

越前市

北野 庄司

花はすに上って胡床異邦人

鯖江市

後藤 利喜夫

ねむいあさ車でむかうはすこうえん

鯖江市

笹原 栄人

薬玉や悪疫退散孫嫡子

越前市

馬場 春之

蓮咲いて仏宇宙に溢れけり

越前市

馬場 春之

アオザイのすくと立ちたる蓮の花

鯖江市

大森 弘美

補聴器にはすの囁き聞くごとき

越前市

萩原 澄子

残したきアルバム夫と蓮に立つ

勝山市

中村 すみ子

加畑 霜子 選

特選

大賀蓮古代のロマン秘めて咲く

福井市

杉原 静

選評

蓮の花は、インドが原産地でそれが各国に分布され、日本では千四百年前より栽培されている。中尊寺金色堂のミイラの遺体より蓮の実が現れ、泥中に芽を吹き今もなお優雅に花が咲き続いている。かく神聖な品格を備えている花は少ない。古来からの尊い物語を「ロマンを秘めて咲く」とは見事な措辞、大賀蓮が象徴的で良いと思う。

秀作

花開く音を聞いたと蓮田守

坂井市

五十嵐 道夫

絵馬の船すべて満帆蔵涼し

福井市

杉原 静

船幟そよぐ右近家御上涼し

福井市

廣瀬 利男

一人来て言うな地蔵の落し文

越前市

前田 絹代

段毎の蓮田に花の遅速あり

福井市

村田 浩

佳作 加畑 霜子 選

バス降りて蓮田 稲田の風に佇つ

鯖江市

岡田 和子

朝靄のはすの開花に固唾のむ

勝山市

平井 繁勝

酒林揺れて涼しき通し土間

敦賀市

青木 純子

空にまだ残る明星蓮刈女

越前市

金森 信子

緑蔭に栄華を偲ぶ宿場跡

鯖江市

齋藤 悟

盆前の出荷の蓮を今朝に剪る

福井市

加畑 朋子

山の子の臨海学校寺泊り

福井市

村田 浩

城山に滅びの礎石夏惜しむ

福井市

村田 浩

蓮池の鯉が夕日をひろげつつ

鯖江市

高島 ケイシ

大津絵の鬼の来ている蓮まつり

鯖江市

齋藤 卓見

連綿と太古を今に大賀蓮

越前市

吉田 房子

蓮の里南朝の歴史夜泣き石

南越前町

坂川 晴海

夜叉姫の涙も濁るる大旱

越前市

加藤 信華

広野ダム旱の底に棄てし村

越前市

加藤 信華

堰落つる水の音にも蓮ゆるる

鯖江市

岡田 和子

水草生ふ藍を沈めて夜叉ヶ池

敦賀市

川口 和代

大輪の風格放つ蓮白し

美浜町

西田 和子

遠き世を経て現世に古代蓮

鯖江市

奥村 真由美

残したきアルバム夫と蓮に立つ

勝山市

中村 すみ子

つられたる鮎の命のしずくかな

敦賀市

山本 一枝

山岸世詩明 選

特選

一仏の現はるること蓮開く

越前市

金森 信子

選評

県下の南越前町は花はす公園と温泉をつくり町民憩いの場所。蓮花は胎蔵界と金剛界の佛が煩惱と知恵をさすけるとは面白い。

秀作

町となり十数年や雲の峰

福井市

瓜生 総子

一人来て言うな地蔵の落し文

越前市

前田 絹代

D51展往事を偲ぶ夏の空

越前市

加藤 蒼美

レンガ積み手掘トンネル滴れり

越前市

加藤 蒼美

田草取り一番星と帰りけり

敦賀市

山本 一枝

佳作 山岸世詩明 選

晩夏光小さき漁村に船主村

福井市

西村 圭子

古代蓮一つ蕾みて一つ咲く

福井市

坪田 哲夫

乗り継いで今年も蓮の風に酔ふ

鯖江市

山田 慶子

ぺこりと子横断歩道蓮の里

南越前町

中村 良子

木の芽風木ノ芽峠のいろは坂

鯖江市

野尻 茂信

水馬浄土の池に輪を重ね

越前市

加藤 信華

つはものも城主も来ませ蓮見頃

越前市

前田 絹代

段毎の蓮田に花の遅速あり

福井市

村田 浩

紅葉の光綾なす夜又ヶ池

福井市

村田 浩

盆の月羽根曾踊りや鈴の音

越前市

北野 裕子

大津絵の鬼の来ている蓮まつり

鯖江市

齊藤 卓見

曇天に蓮田客足まばらなる

福井市

東 さよ子

大蓮田見え隠れする車椅子

越前市

加藤 信華

大賀蓮咲いて太古の香り乗せ

鯖江市

岡田 和子

はのうえにへびがいきてるびっくりだ

鯖江市

笹原 栄人

蓮小道見知らぬ人に会釈して

南越前町

米野 道雄

船主の刺子半纏黴させず

鯖江市

大森 弘美

残したきアルバム夫と蓮に立つ

勝山市

中村 すみ子

古代より未来へ託す大賀蓮

福井市

高石 まゆみ

蓮活けてより灯りたる恋うこころ

大野市

石田 秋桜

山口 美智女 選

特選

被災宅の泥掻き終へて蓮湯かな

越前市

岡田 有峰

選評

先日の線状降水帯で豪雨被災されました方々に謹んでお見舞申し上げます。
久しぶりにはすまつり投句会を開催され、四百句余りの投句がありました事は、
如何に皆様が俳句に対する興味をお持ち頂いておられるのかを知り大変心強く、
嬉しく感じております。私が特選に頂きました句は、酷暑の中、息をするのも苦
しい中必死で泥掻きをされ、句の中に、暑い・汗・疲れ等苦闘の言葉が一つも入
っていないその爽やかさに心が打たれました。そして下五を「蓮湯かな」と読み
切ったその心の広さに深い感銘を受けました。被災された方々にそのお姿は奮い
立つほどの勇氣と希望を与えられた事と思えます。

秀作

玉繡蓮緋鯉取りまく浮御堂

鯖江市

しほんぎ ただし

鎮魂の城址風に散る蓮華

福井市

松本 和枝

城山に滅びの礎石夏惜しむ

福井市

村田 浩

今も残る建武の姓や蓮の里

南越前町

米野 道雄

補聴器にはすの囁き聞くごとき

越前市

萩原 澄子

佳作 山口 美智女 選

西方へ日の沈みゆく大蓮田

鯖江市

岡田 和子

梅雨晴れ間板取磴の踏み窪み

勝山市

平井 榮勝

東雲の蓮切る妻の身拵え

敦賀市

青木 純子

蓮池の真昼の静寂出荷後

福井市

竹川 照子

卯の刻や蓮の開花に息合せ

越前市

富鼓

蓮浄土賽の河原を遠くする

越前市

金森 信子

つはものも城主も来ませ蓮見頃

越前市

前田 絹代

右近館夏雲越しに経ヶ岬

越前市

北野 裕子

連綿と太古を今に大賀蓮

越前市

吉田 房子

蓮葉の葉脈奔る銀の雨

越前市

土橋 加代子

蓮祭り家族で見るときれいだな

福井市

ゆうちゃん

レンガ積み手掘トンネル滴れり

越前市

加藤 蒼美

夜叉姫の涙も濁るる大旱

越前市

加藤 信華

堰落つる水の音にも蓮ゆるる

鯖江市

岡田 和子

蓮の葉の揺れて濃くなる風の色

鯖江市

岡田 和子

蛸や豆の木の白守る寺

越前市

馬場 春之

鎮魂の祈りを永遠に誠蓮

南越前町

米野 道雄

船主の刺子半纏黴させず

鯖江市

大森 弘美

古代蓮そよぎ令和の風を聴く

敦賀市

山本 一枝

はなはすの万華鏡なる浮御堂

鯖江市

木村 遊子

田中哲夫 選

特選

炎天下被災宿場の泥をかく

越前市

岡田 有峰

選評

この句は、はすまつり句とは異質にみえるが今年の投句の中からどうしても外すことの出来ない句である。テレビでしか惨状を見ていないが、作者の思いがひしひしと伝わってくる。南越前町にしても、記録に残る災害であり、記憶に残る一句ではなからうか。

秀作

招待は初めて父母と蓮の宿

南越前町

中村 良子

絵馬の船すべて満帆蔵涼し

福井市

杉原 静

供花の水替へて足早蓮刈女

越前市

上嶋 昭子

カメラマン必死蓮田の泥を噛む

福井市

加畑 朋子

レンガ積み手掘トンネル滴れり

越前市

加藤 蒼美

佳作 田中哲夫 選

泥田より花を掲げて蓮切女

坂井市

五十嵐 道夫

花開く音を聞いたと蓮田守

坂井市

五十嵐 道夫

古民家守る夏炉焚きゐて三十年

南越前町

中村 良子

山間に二胡の流れり大賀蓮

福井市

竹川 照子

蓮開く音は仏の吐息とも

越前市

金森 信子

大夕焼杣山城の櫓跡

鯖江市

佐藤 節子

一人来て言うな地蔵の落し文

越前市

前田 絹代

段毎の蓮田に花の遅速あり

福井市

村田 浩

蓮の葉はパラボラアンテナ実は記憶

南越前町

近藤 小鼠

盆の月羽根曾踊りや鈴の音

越前市

北野 裕子

船絵馬のどれも満帆だしの風

作者不詳

宿場町夏だいこんやおろしそば

越前市

北野 庄司

蓮苑を守りし人の名を知らず

鯖江市

笹原 和代

D51展往事を偲ぶ夏の空

越前市

加藤 蒼美

大蓮田見え隠れする車椅子

越前市

加藤 信華

広野ダム早の底に棄てし村

越前市

加藤 信華

はのうえにへびがいきてるびっくりだ

鯖江市

笹原 栄人

蓮小道見知らぬ人に会釈して

南越前町

米野 道雄

船主の刺子半纏黴させず

鯖江市

大森 弘美

蓮剪女居るらし蓮の花揺るる

鯖江市

奥村 真由美